

特116

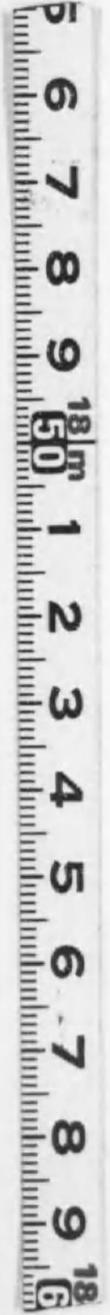
717

地拍子附
大小鼓太
鼓手配附

忠

度

内八ノ二



始



ても俊成亡くなり終ひて後。か模の姿
 とになりては。又西國を見ずは程に。社度
 思立ち西國行脚と志しは
 宮に赴き都を隔つる山崎や。關戸の
 宿は名のみじて。海りも果てぬ旅の習。
 憂き身はいつもまじはりの。塵の浮世
 の。蘇川。猪名。の。小。條。を。分。け。通。ぎ。て。

下歌 （平） 十音
 つきもやどかる。昆陽のいけ。

上歌 （上） 十音
 みなそこきよよく。澄みないいで。
 あしの葉わけの。かぜのおと。

あしの葉わけの。かぜのおと。
 聞かじと。するに。憂きことの。

捨つる。糸。ま。ア。で。も。あ。り。馬。や。ア。ま。
 か。く。ね。か。ね。た。る。一。世。の。な。か。の。

巻 終

憂ウレきキにニこコこコろロはハあアだダゆユめメのノ。
 覺カクむムるルまマくクらラにニかカけケたタねネとトほホきキ。
 なナにニ波ハはハあアとトにニいイなるナ尾ビがガたタ。
 おオきキなナみミとトほホきキいイぶフねネかカたタなナ。
 おオきキなナみミいイとトほホきキぶフねネかカたタなナ。
ナニ ナニ ナニ ナニ ナニ

《出ノ囃子》

一聲 不越

止メコイ合

サシサシ合合子子

げゲにニ世セをヲ渡ワるル習ナとトでテかク憂ウレきキ業ノにニもモこ
 りリずズまマのノ波ハまマぬヌ時トキだダにニ塩シホ木キをヲ運ハべベば。
 乾カハせセどドもモひヒまマはハなナれレ衣イのノ浦ウラ山ヤマかカけケてテ須ス
 磨トのノ海ウミ一一聲コト蚕アハのノ呼ヨびビ聲コトひヒまマなナきキにニ屢シ
 鳴ナくク千チ鳥トリ畜ケルそソ遠トホきキササシシそソもモそソもモこコのノ須ス
 磨トのノ浦ウラとト申マウすスはハ寂サマしシきキ故ユにニ其ソノ名ナをヲ得トク
 るルわワくクらラはハにニ同ドウふフ人ヒトあアらラばバ須ス磨トのノ浦ウラにニ。

三

藻汐たれつつ他ふと答へよ。けにや漢の
 蚤小舟。藻汐の煙松の風いづれか寂し
 からずと云ふ事なき。詞 又此須磨の山
 陰に一本の榎のひこれほ或人の亡き跡
 の標の本なり。殊更時しも春の花。手
 向のため逆縁ながら。あしびきイの
 やまよりかへるをりごに。

たきボはなを抑りそへて
 手むけをなしてかへらん
 手むけをなしてかへらん

詞 いかにごれなる老人。おことは此山賤にて

ましますか。さん此浦の蚤にて
 蚤ならば浦にごそ住むべきに。山あるか
 に通はんをば。山とこそいふべけれ

詞シテもア蟻人の汲む汲をば焼がで其まま

置きしべきかワキカ上音げにげにこれハ理なり。

藻汐焚くなるカ煙シテ絶え間を遅しと

塩木採るワキ道こそかはれ里離のシテ人音中音ま

れに須磨の浦ワキ近き後の山里にシテ上歌上音し平歌

ばと云ふものハのハさふらべハエハばハ

アハ地同音いハ

ばと云ふものハのハさふらへばハ

しほハ木のたハめにハかよハみハ来ハるハ

あハまハりにハおハろハかハなるハ

かハそハうハのハあハらハりハかハなハやハなハアハ

地上音げハにハやハ須磨のハうハらハアハ

余のハとハこハろハにハやハかハはハるハらハアハんハ

それハはハなハにハつハらハきハはハアハ

忠度

五

^{ツレ}みねのあらしや^{ツレ}まをらし
^{ツレ}の^{ヤア}おとをこそい^トひしに
^{ツレ}須磨のわか^若木のさくら^根はら
^{ツレ}みすこい^{半声}だに^所へ^アだてねば
^{ツレ}やまの^ハさくら^ハも^道散るもの^ハを
^{ツレ}如何に耐^ハ敵^ハはや^ハ日の^ハ暮^ハれて^ハい^ハば^ハ一^ハ夜^ハ

詞^{ワキ}如何に耐敵はや日の暮れていば一

の宿を^{シテ}漸^{シテ}かし^{シテ}いへ^{シテ}うたてやな^{ワキ}此花の
 陰^{ワキ}ほどの^{ワキ}お宿の^{ワキ}い^{ワキ}べきか^{ワキ}げ^{ワキ}に^{ワキ}げ^{ワキ}に^{ワキ}これ
 は花の宿なれども^{シテ}さり^{シテ}ながら^{シテ}ら^{シテ}誰^{シテ}を^{シテ}主^{シテ}
 と^{シテ}定^{シテ}む^{シテ}べき^{シテ}行^{シテ}き^{シテ}く^{シテ}れ^{シテ}て^{シテ}木^{シテ}の^{シテ}下^{シテ}陰^{シテ}を^{シテ}宿^{シテ}
 と^{シテ}せば^{シテ}花^{シテ}や^{シテ}今^{シテ}宵^{シテ}の^{シテ}主^{シテ}なら^{シテ}ま^{シテ}じ^{シテ}と^{シテ}
^{カル}詠^{上音}め^{上音}し^{上音}人^{上音}は^{上音}此^{上音}花^{上音}の^{上音}下^{上音}痛^{上音}は^{上音}し^{上音}や^{上音}我^{上音}等^{上音}が^{上音}や
 う^{上音}なる^{上音}聲^{上音}だ^{上音}に^{上音}も^{上音}常^{上音}は^{上音}立^{上音}ち^{上音}あ^{上音}り^{上音}平^{上音}ひ^{上音}申^{上音}

ず。に。序。僧。達。は。な。ど。送。縁。を。が。ら。取。ひ。給。
 は。ぬ。愚。に。ま。し。ま。す。人。び。と。か。な。詞。行。き
 嘗。れ。て。木。の。下。陰。を。宿。と。せ。ば。花。や。今。宵。
 の。主。な。ら。ま。し。と。詠。め。し。人。は。薩。摩。の。守。
 忠。度。と。申。し。し。人。は。此。一。の。谷。の。合。戦。に。討。
 た。れ。ぬ。ゆ。か。り。の。人。の。植。ゑ。墨。き。た。る。標。
 の。木。に。て。ひ。な。り。こ。は。そ。も。不。思。議。の。値。

遇。の。縁。さ。し。も。さ。ば。か。り。俊。成。の。和。歌。
 の。友。と。て。浅。か。ら。ぬ。宿。は。今。宵。の。鉦。の。人。
 名。も。た。だ。の。り。の。こ。ゑ。聞。き。て。
 は。な。の。う。で。な。に。産。し。た。ま。へ。エ
 あり。が。た。や。い。ま。よ。り。は。
 か。く。と。ふ。ら。ひ。の。こ。ゑ。聞。き。て。
 ぶ。の。果。を。得。ん。ぞ。う。れ。し。き。

忠慶

七

地上音不上音思上音儀上音や上音い上音ま上音の上音ら上音ら上音じ上音ん上音の上音。

手上音む上音け上音の上音こ上音急上音を上音承上音に上音受上音け上音て上音。

よ上音ろ上音こ上音ぶ上音氣上音し上音き上音見上音え上音た上音る上音は上音な上音。

ア上音に上音の上音ゆ上音急上音に上音て上音あ上音る上音や上音ら上音ん上音。

シ上音テ上音お上音そ上音ら上音に上音承上音は上音れ上音ま上音ら上音さ上音ん上音と上音。

て上音エ上音こ上音れ上音ま上音て上音来上音た上音れ上音り上音と上音。

地上音ゆ上音ふ上音べ上音の上音は上音な上音の上音か上音げ上音に上音寐上音て上音。

ゆ上音め上音の上音つ上音げ上音を上音も上音ま上音ち上音た上音ま上音へ上音。

み上音や上音こ上音へ上音こ上音と上音傳上音て上音も上音ら上音さ上音ん上音と上音。

エ上音は上音な上音の上音か上音げ上音に上音や上音ど上音り上音本上音の上音。

行上音く上音か上音た上音知上音ら上音ず上音な上音り上音に上音け上音り上音。

行上音く上音か上音た上音知上音ら上音ず上音な上音り上音に上音け上音り上音。

中入

狂言

詞上音ま上音づ上音ま上音づ上音都上音に上音歸上音り上音つ上音つ上音家上音に上音こ上音の上音事上音。

ために魂魄にうつりかはりて来りたり。
 さなきだに妄執多き婆娑なるに何な
 かなかの千載集の歌の品にはべりたれ
 ども、勅勘の身の悲しさは、讀人しらず
 と書かれし事、妄執の中の第一なりさ
 れどもそれを撰じ給ひし、俊成さへ空し
 くなり給へば、所外は所内にありし人

なれば、今の定家君に申し、然るべしは作
 者をつけてたび給へと、夢物語申すに、須
 磨のうらがせも、こころせよ
 げにや和歌の家に生れ、其道を嗜み、教
 の蔭によつし事、人倫に於て專らなり
 中にも忠度は、文武二道を受け給ひて
 世上に眼高し地、そもそも後白河の院の

忠度

十

帝家に千載集を撰はる。五條の三位

俊成の卿。承つてこれを撰す。

下歌
どしは壽えいのあきのころ。

みやこを出てしときなれエば

上歌
さもいそがはしかりしネイの

さもいそがはしかりしネイの

ころのはなにからんぎくの

きつねがはよりにけきかべし
うたのぞみをなげきしに
まなきうせんにたづさはり
いさいかいのなみのうべ
しばしとたたのむ須磨のうら

以下拍子
に合はず
明*

ンー。げん氏の一任みどろ。

べーい家のためはアよしなしと

知らアざりけるぞはかなき

さる程に一の谷の合戦。今はかろよと見え

し程に。皆みな船に取り棄つて海上に浮

ふ（トイ合）われも船に棄らんとして、河の方に

ち出でしに、後を見れば、武蔵の國の住人

に、園部の六弥太忠澄と名乗つて、六七騎

にて、追ひかけたり。これこそ望むところよ

と思ひ、豹の手鑑を引の返せば、六弥太やが

てむずと組み、兩馬か間にどろと落ち。

彼の六弥太を取つてをさへ、既に刀に手

をかけたしに

地ろく弥太がろろぞろ。

忠澄

下

フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ)

このきい たまへ ひとびとよ
に い おが まえと のたまひて
じの ばら せか いねんぶ びんせう
うせ せか 捨ての たまひし
おんこ 急の したより
い たは し やあ へなくも

フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ) フコセ (フコセ)

おん けり の
うへに まします ただのりの
みぎの かひな をおちおとせ
ぼろ ひだり のおん手にて
く弥太を取 びん 除けい
まは かなは じと おぼし
て エ トリ

志願

十二

(三) 地

おん 名ゆかしきとこらに

(四) 地

急びらを見れば不思議やなア

(三) 地

たんじやくをつつけられたり

(二) 地

見れば旅しゆくのだいをす急

行きたる来の下陰を宿とせば

立ち廻り 花や今宵の主ならまじ

ただのりど書かれたり

(二) 地

地 さで はうたかひあらしのおと

(三) 地

にイン きこえしさまつ摩のか

(四) 地

に てますぞいをはしき

(三) 地

か げ に 立ち寄り たまひしを

(二) 地

か く も の が た り ま り さ ん と

(三) 地

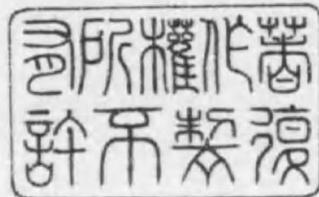
て 日 を く ら し と ど め し な

五

終



大正十年六月五日印刷
大正十年六月十日發行



著者

田崎延次



發行兼
印刷者

檜常之助



發行所

檜大瓜堂書店

印刷所

小林印刷株式會社

東京市神田區錦町壹丁目拾番地

東京市神田區錦町二五二八番

振替口座東京三五五二番

東京市麹町區集町貳拾壹番地

東京府下豊多摩郡淀橋町柏木百四十三番地

ヤ
△ア
トリ
ヤ
ハ
い
ま
ト
リ

ア
は
ア
ン
ら
た
が
ひ
よ
も
あ
ら
じ

イ
は
な
は
根
に
か
へ
る
な
り

わ
か
が
あ
と
吊
ひ
て
エ
た
び
た
ま
へ

本
か
げ
を
た
び
の
や
ど
と
せ
ば

は
な
ア
こ
そ
あ
る
じ
な
り
け
れ

各
心
心
心
心
心

終

